

令和5年3月7日
役員会決定

富山大学におけるデータサイエンス推進の基本方針

背景

国は、AI戦略2019の下、2025年（令和7年）までに数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベル教育を全ての小・中・高・大学・高専生に実施する目標としている。

また、教育未来創造会議（R4.5.10）では、「我が国の少子化が急速に進行する中、日本の社会と個人の未来は教育にある。2030年（令和12年）には先端IT人材が54.5万人不足するとの予測もありデジタル人材の不足が課題である。予測不可能な時代に必要な文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成が必要である。」旨を提言している。

基本方針

本学は、時代や社会の要請に応え、データサイエンスに関する教育、研究及び社会貢献を推進することにより、人材育成や地域の発展に貢献する。

2027年度（令和9年度）までに、実績について評価を行い、次期に向けた見直し・改善を行う。

教育

学士課程では、基本的なデータ活用リテラシーを身に付け、資料・データに基づく論理的考察及び他者とのコミュニケーションによって課題解決を図ることのできる人材を育成する。

修士課程では、研究面や社会での実践面において必要とされる応用レベルのデータ活用リテラシーと研究能力を身に付け、他者と協働して業務を遂行する高度専門職業人材を育成する。

博士課程では、専門分野で独立した研究者として研究を遂行する上で必要とされる情報収集能力及び高度なデータ活用力を身に付け、各専門分野で先導的な役割を果たす人材を育成する。

研究

第4期中期目標期間最終年度である2027年度（令和9年度）までに、文系理系を問わず様々な領域や複合的な領域においてデータサイエンスを活用した研究を推進する。併せて、自治体・企業・高等教育機関との共同研究、寄附講座、大学院での教育・研究を通じてデータ活用人材の育成を推進し、地域の発展及び領域横断的課題の解決に貢献する。これらについて、特に本学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもある薬・ヘルスケア、軽金属、カーボンニュートラル及びスマートシティの領域において、重点的に取り組む。

社会貢献

本学のデータサイエンスに関する教育、研究の成果を社会へ還元することにより、ステークホルダーの拡充と地域の発展に貢献する。

2024年度（令和6年度）までに、オープンクラス、公開講座、実践演習等を開講することにより、地域や社会のニーズに応えるデータサイエンスの人材育成プログラムを充実させる。また、県・市と共に取り組んでいる、学校教育、社会人教育、産学官金連携といった各種のデータサイエンス推進事業と地域の課題に対して、全学的な協力により、着実な実施と解決を図る。